

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0890800022		
法人名	有限会社ふれあい介護サービス		
事業所名	グループホーム ふれあい		
所在地	茨城県龍ヶ崎市原塚町3605-5		
自己評価作成日	平成22年2月20日	評価結果市町村受理日	平成24年4月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://ibaraki-kouhyou.as.wakwak.ne.jp/kouhyou/infomationPublic.do?JCD=0890800022&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人認知症ケア研究所
所在地	茨城県水戸市酒門町字千束4637-2
訪問調査日	平成22年3月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ふれあいの基本理念に基づき、
1. 明るく楽しく笑顔あふれる新しい第二の我が家を目指します。ご利用者様がご自分のご自宅で生活していた時のように穏やかで安心した日々を送ることができるようにお手伝いをさせていただいております。季節を感じる行事や、広々とした緑豊かな環境の中で畑仕事やお茶のみをしています。毎日、近所の牧場まで散歩に出かけ、季節の移り変わりをたのしんでいます。
2. 個性を大切に、常に愛情を持って寄り添い信頼関係を築きます。ご利用者様のお一人お一人の個性を把握し、その方のニーズに添ったケアを日々考えていくように努めています。昼食時には職員も一緒に食事をして色々な話をして仲の良い人間関係を築けるようにしています。
3. 地域の皆様方とふれあいながら開かれた施設になるように努めます。近所の方々が気軽に遊びに来て下さり、お茶のみ話をさせて頂いております。ホームで孤立することなく、買い物やお食事、外出しています。ホーム主催の納涼祭、餅つき大会等には、近隣の方々をご招待させていただいております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

周囲は自然環境に恵まれ、近くの牧場は入居者の憩いの場となっている。牧場主とも顔見知り、散歩に出かけるたびに労いの声掛けするなど地域密着ならではの交流がある。開設2年目だが、職員育成にも力を入れることで職員が定着している。管理者の細やかな気配りで職員も安定、より良いケアに結びついている。また、役割を終えた盲導犬を飼うことで、アニマルセラピーの効果も体験している。利用者の癒しはもちろん、外部からも犬に会うため訪れ入居者との交流へと広がっていた。管理者始め職員の頑張りが、利用者の笑顔に繋がっている。理念に基き自然体で行うケアが評価される。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設時の職員研修にてスタッフ全員でふれあいの理念を創り上げ、地域の中で共生することを掲げています	事務所、玄関各ユニットのホールに掲示するほか、各自名札の裏に携帯し、いつでも確認し理念の共有と理解に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩に出かけた時にはご挨拶をして、ホームに気軽に遊びに来て下さるようお声を掛けさせて頂いております お花やお野菜を持って遊びに来て下さっています	近くの牧場に散歩に行ったり、近くから野菜が届くこともあり、近くのおばあちゃんが寄って話しをして行くなど馴染みの方との交流は継続している。ホームの畑を近くのボランティアの方が来て、トラクターで手入れしてくれる。自治会に加入し、地域の一員として意識している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方からのご相談を受けてお手伝いしております		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	お忙しい中、お集まりいただき、貴重なご意見を頂き、サービス向上に努めています	2ヶ月に1回の開催は困難な状況にある。時には区長さんが立ち寄りお茶を飲んでいくこともあるので、ホームの様子を見てもらいご意見をもらったりしている。	回数にこだわらず、内容についてもっと協議して活かしていただきたい。小中学生の職場体験や地域との避難訓練など地域とのパイプ役として検討してほしいかがか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	実地指導を受け協力関係を築けるよう努めています	資料に基づき説明会や書類精査もあり丁寧な指導を受けた。実地指導をきっかけに、より相談しやすくなった。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関を開放し、常にご利用者様に寄り添うケアを実践しています	どうしても必要な時は、家族の同意書もらう。本人に説明+市役所へ報告書類を提出。無意味に拘束するのではなく、色々と話し合い、様々な手を講じた後の判断として行ったことを説明する。話し合いの中から、手のかからない人ほど心のケアが必要という意見が出てきた。	

茨城県 グループホームふれあい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内研修を行い防止に努めております		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度が必要な方には社会福祉協議会の担当者の方をご案内しています 職員は社内研修にて研修を行っています		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	充分なご理解を頂けるように丁寧な説明を心がけております		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている			
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンス、気づきノートを活用してスタッフが気軽に意見を言える環境を整えています	月1回のカンファレンス、色々意見が出ている。カンファレンスシート(援助方針や気づきを記入)職員からの提案、前回の評価、気づき、今回話し合ったこと、決定事項(サービス内容)を参考にしてプラン変更へ反映。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日々、職員が働きやすい環境づくりに努めています 今後も引き続き努めていきます		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修、社外研修を積極的に行い、個々のスキルアップを図っています		

茨城県 グループホームふれあい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今後、機会を設けるよう努力していきます		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様とゆっくり向き合う時間を確保し傾聴を心がけています 寄り添う姿勢を大切にしています		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者様と同様、お話をさせていただき機会を頂き傾聴を心がけています		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ホームに入所される以前の経緯をアセスメントして真のニーズ把握に努めています		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者様にも出来ることはお手伝いをし ていただき共生することを大切にしています		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホームの行事等にはご招待させて頂き、ご家族様とご利用者様の絆を大切にしています		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	出来る限り、要望に沿えるように支援を行っております	馴染みの美容室、床屋へ出かける支援を行っている。ホームへ出向いてくれる床屋さんもある。事務所の電話が自由に使えるので友人、家族と話ができる。行きたいところがあれば支援し、年賀状の返信の手伝いもしている。	

茨城県 グループホームふれあい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士が交流を深められるように職員がお手伝いさせていただいております		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	近況をお話に来て下さったり、出来る限りお手伝いをさせて頂いております		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	各ご利用者様の担当職員を配置してよりきめ細かい気づきをあげ、適切なケアが出来るように努めております	表しにくい方は家族からお話を聞いている。日々の観察の中から個々の職員の気づきを共有し、初回アセスメントに書き加えている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様、ご家族様からのヒアリングに重点を置き、ケアマネージャー、ソーシャルワーカーと連携をとり把握に努めております		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各ご利用者様の担当職員がよりきめ細かい気づきをあげ、適切なケアが出来るように努めております		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	まだ十分な段階ではありませんが多くの方の意見を取り込めるように配慮していきます	モニタリングは原則半年に一回、カンファレンスでの意見を参考にしながらプランを考える。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録、気づきをもとに、ケアファレンスにて共有しております		

茨城県 グループホームふれあい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	既成観念に捉われず、ご利用者様のニーズに対応できるように努めています		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を活用し、支援を行うことには充分に対応できていません		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎日のバイタル測定、ホームでのご様子をご報告させて頂き、適切な医療を受けられるように支援させて頂いております	ほぼ全員が入居前のかかりつけ医に受診している。付き添いは家族が行い、出来ない時には職員が行う。歯科受診も同様。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	支援させて頂いております		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ソーシャルワーカー、関係者の方と連携をとるようにしております		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	充分に取り組んでいないのが現状です 今後対応を検討していきます	まだ方針は出ていないので、これから話し合っていきたい。	出来るだけ早く話し合い、方針を決めて置く。研修で学びながら、どこまでできるかできないかなど具体的に検討していただきたい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に行うまでには至っておりません		

茨城県 グループホームふれあい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協体制を築いている	消防署と連携し、避難訓練を全職員が行い備えております	夜間想定はなし。今、夕食のみ火を使用、夜間帯は火は使わないなど、火事にならないような工夫をしている。朝食は簡素化、その分昼と夜は豪華に。備蓄品なし。訓練で気付いたことがたくさんあった。	備蓄品は早めに用意。広域避難場所の確認を。訓練での気付きを参考に、近隣との訓練についても検討していただきたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳の保持を常に念頭においてケアにあたっております	プライバシーに関わることはみんなの前では話さないようにしている。入浴や排泄時にも配慮している。書類はスタッフルームに保管、スタッフ以外の目には触れない。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	感情の表出が出来るように日頃から、信頼関係の構築に努めております		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	気をつけていくべきことであることは周知していますが、業務体制が優先になっていることがあるのが現状です		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ニーズに沿ったお手伝いをさせて頂いております		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の嗜好の把握に努めています 食事の準備など、一緒に行っております	職員も席につき、みんなで会話しながら食事を楽しんでいる。畑で採れた野菜を利用、季節感のある食事。かたづけを手伝っている方もたくさんいた。メニューはホームの職員が作っている。定期的に寿司を取ったり、月一回外食も楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	お食事、水分チェック表を活用し、個別の対応が出来るように支援しています		

茨城県 グループホームふれあい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、ケアをおこなっております		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、個別の排泄パターンを把握し、全ご利用者さまの自立に向けた支援を行っています	パターンを把握している。(チェック表を、すぐにわかるように書いている)排泄パターンを時間単位で一カ月間調べて、尿量も把握してパットを使い分けているなど細やかな対応をされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	社内、社外研修において便秘に対する理解を深め排泄チェック表を活用し、適切な支援が行えるように取り組んでいます		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	職員の業務優先で行っているのが現状ですニーズに沿った支援が出来るように努力していきたいと思ます	1日おき、1日4~5人なので、ゆっくり時間をかけて入浴。冬はゆずもたくさん採れるので、ゆず風呂を楽しむ。他にりんご風呂、お茶風呂なども楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣を大切に頂くように支援を行っております		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の重要性について毎月カンファレンスにて確認をしております 与薬にはミスがないように与薬チェック表を作成しチームで確認を行っています		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴を基に活力のある生活が出来るように支援しております		

茨城県 グループホームふれあい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	出来る限り、要望に沿えるように支援を行っております	利用者の友人の面会がある。家族とともに外出し、親戚に会いに行く方もある。買い物は曜日を決めて行っている。午前中は散歩に出かけることが日課となっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出の際には、ご希望のご利用者さまにはお手伝いをさせていただきながら買い物を楽しんで頂いております		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望に沿った支援を行っております		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔で安心できる環境を保てるように配慮しております 季節感を取り入れた飾り物や掲示物の作成をご利用様と行っております	季節の物を掲示、利用者の作品(手縫物)玄関に大きな雛人形の段飾りがあり、季節の花を飾るなど季節感を醸し出している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室でくつろげる環境や、ホールにソファを用意したりテーブルの配置を変えたりしております		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご入居時には、ご自宅で使用していた馴染みの家具などをお持ちいただくようにご案内をしております	テレビがある部屋もあり。ベッドは据え付けだが、布団や冷蔵庫は持ち込み。それぞれ思い思いのレイアウトになっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の有する能力を最大限活かして、自立した生活が送れるようにお手伝いさせていただきます		

目標達成計画

作成日：平成 24 年 4 月 8 日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1					ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。